

北見工業大学学報

第 259 号 (2013 年 9 月号)

目 次

学位記授与式	平成 25 年度 9 月期学位記授与式を举行……………	3
入 試	大学院入学試験を実施……………	4
	平成 26 年度編入学学生募集要項(推薦入試)(第 2 次募集)の公表……………	5
	平成 26 年度学生募集要項の公表……………	6
研 究 助 成	平成 25 年度科学研究費助成事業交付一覧……………	8
	平成 25 年度共同研究の受入状況……………	11
	平成 25 年度受託研究の受入状況……………	11
	平成 25 年度奨学寄附金受入状況……………	11
人 事 諸 報	人事異動……………	12
	電子情報通信学会電子部品・材料研究会に参加……………	13
	小学校教諭対象の理科実験研修「地質見学会～地層と化石を探る」を実施……………	14
	「おもしろ科学実験」を開催……………	15
	東北復興支援活動を実施……………	16
	S P P で高校生が環境調和型エネルギーを学習……………	17
	「科研費パワーアップセミナー」を開催……………	18
	平成 25 年度北見工業大学技術部技術員研修を実施……………	19
	高大連携協力に関する協定に基づく講座を実施……………	20
	イノベーションジャパン 2013 大学見本市へ出展参加……………	21
	食に関わる有識者を招き講演会を開催……………	23
2nd International Workshop on Advanced Packaging & System Technology を開催……………	24	

	F D 講演会を開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
	平成 25 年電気学会電子・情報・システム部門大会を開催・・・・・・・・	26
	インフォメーションバザール in 池袋へ出展・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	電気工学科第 4 期生(S48 卒)のご一行 10 名が母校を訪問・・・・・・・・	28
	興部町で行われたマルシェ活動に学生と共に参加・・・・・・・・	29
	地域社会人の人材育成事業－4 大学合同特別セミナーに参加－	30
目 次	8 月・9 月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31

= 学位記授与式 =

平成 25 年度 9 月期学位記授与式を挙行

(総務課)

平成 25 年度 9 月期学位記授与式が、9 月 6 日(金)午前 10 時 30 分から、本学第 2 会議室で行われました。

授与式では、理事、副学長、事務局長、指導教員の他、修了生の関係者の方々が列席するなか、大学院工学研究科博士前期課

程・博士後期課程修了者に対し、鮎田耕一学長から学位記が授与され、ひとりひとりにねぎらいの言葉がありました。

また、式終了後には記念撮影を行うなど、喜びを分かち合う姿が見られました。



鮎田学長（右）より学位記を授与される修了者の様子



修了者に祝辞を述べる学長

= 入試 =

大学院入学試験を実施

(入 試 課)

8月26日(月)～28日(水)、平成25年度秋季及び平成26年度大学院入学試験を実施しました。課程別専攻別の合格者数等は、下表のとおりです。

平成25年度(秋季)博士前期課程

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械工学専攻	若 干 人	0	0	0
社会環境工学専攻		1	1	1
電気電子工学専攻		2	2	2
情報システム工学専攻		1	1	1
バイオ環境化学専攻		1	1	1
マテリアル工学専攻		0	0	0
合 計		5	5	5

平成25年度(秋季)博士後期課程

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
生産基盤工学専攻	若 干 人	0	0	0
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻		0	0	0
医療工学専攻		1	1	1
合 計		1	1	1

平成26年度博士前期課程(第1回募集)

専攻名	入学定員	募集人員			志願者			受験者			合格者			
		一般入試	特別入試	計	一般入試	特別入試	計	一般入試	特別入試	計	一般入試	特別入試	計	
機械工学専攻	22	11	若 干 人	22	17	1	33	17	1	32	17	1	29	
		11			15			14			11			
社会環境工学専攻	20	10		20	8	0	19	8	0	19	8	0	19	
		10			11			11			11			
電気電子工学専攻	20	10		若 干 人	20	10	0	17	10	0	16	10	0	14
		10				7			6			4		
情報システム工学専攻	16	8	16		7	1	21	7	0	19	7	0	19	
		8			13			12			12			
バイオ環境化学専攻	18	9	18		2	0	12	2	0	10	2	0	10	
		9			10			8			8			
マテリアル工学専攻	16	8	16	9	0	15	9	0	15	9	0	13		
		8		6			6			4				
合 計	112	112			117			111			104			

※一般入試の上段は推薦入試、下段は学力試験入試

※特別入試は社会人特別入試、外国人留学生特別入試及び高等専門学校専攻科生特別入試の合計

平成 26 年度博士後期課程(第 1 回募集)

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
生産基盤工学専攻	3	1	1	1
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3	0	0	0
医療工学専攻	2	0	0	0
合計	8	1	1	1

平成 26 年度編入学学生募集要項（推薦入試）（第 2 次募集）の公表

（入 試 課）

平成 26 年度編入学学生募集要項（推薦入試）（第 2 次募集）が公表されました。概要は以下のとおりです。

学科及び募集人員	工学部全学科 7 人
出願資格	高等専門学校・理工系の短期大学を平成 26 年 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 26 年 9 月卒業見込みの者)
出願期間	平成 25 年 10 月 23 日（水）～平成 25 年 10 月 29 日（火）
試験日	平成 25 年 11 月 20 日（水）
合格発表	平成 25 年 12 月 11 日（水）

平成 26 年度学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 26 年度北見工業大学学生募集要項（一般入試・特別入試）が公表されました。募集要項の主な内容は以下のとおりです。募集要項の配布は入試課窓口で行っております。

募集人員

系・学科名		入学 定員	募集人員			
			前期日程	後期日程	推薦入試	帰国子女特別入試
機械・社会環境系	機 械 工 学 科	160	64	56	40	各系とも 若干人
	社会環境工学科					
情報電気エレクトロニクス系	電 気 電 子 工 学 科	140	63	42	35	
	情報システム工学科					
バイオ環境・マテリアル系	バ イ オ 環 境 化 学 科	110	46	36	28	
	マテリアル工学科					
合 計		410	173	134	103	

※ 入学後 1 年間は各系に所属し、2 年次進級時に本人の志望及び学業成績により系内の学科に移行します。

《注意事項》

- ① 後期日程の募集人員には、各系とも帰国子女特別入試の募集人員若干人を含みます。
- ② 推薦入試の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

一般入試	特別入試（推薦入試・帰国子女特別入試）
<p>1. 募集人員 別表のとおり</p> <p>2. 願書受付期間 平成 26 年 1 月 27 日(月)～2 月 5 日(水)</p> <p>3. 個別学力試験の期日 前期日程：課さない 後期日程：平成 26 年 3 月 12 日(水)</p> <p>4. 合格者の発表 前期日程：平成 26 年 3 月 6 日(木) 後期日程：平成 26 年 3 月 20 日(木)</p> <p>5. 入学手続期間 前期日程：平成 26 年 3 月 7 日(金)～3 月 15 日(土) 後期日程：平成 26 年 3 月 21 日(金)～3 月 27 日(木)</p> <p>6. 追加合格通知期間 当初の合格者で入学定員に満たない場合は、 平成 26 年 3 月 28 日(金)から合格者の追加を行います。</p>	<p>1. 募集人員 別表のとおり</p> <p>2. 願書受付期間 平成 25 年 11 月 1 日(金)～11 月 8 日(金)</p> <p>3. 選抜試験の期日 平成 25 年 11 月 29 日(金) (志願者が多数の場合は 11 月 30 日(土)に及ぶ場合もあります。)</p> <p>4. 合格者の発表 平成 25 年 12 月 11 日(水)</p> <p>5. 入学手続期間 平成 26 年 1 月 20 日(月)～1 月 24 日(金)</p>

個別学力検査日時・会場

期 日	教 科	時 間	会 場
平成 26 年 3 月 12 日(水)	数学	9 : 30～11 : 30	北見工業大学または 大阪会場（関西大学天六キャンパス）
	理科	12 : 50～14 : 20	

= 研究助成 =

平成25年度科学研究費助成事業交付一覧

(研究協力課)

○新学術領域研究 (研究領域提案型)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	教授	大橋 鉄也	マルチスケール計算力学によるLPSO構造の変形と力学特性の解明	17,550		○

○基盤研究 (A) 海外

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
環境・エネルギー研究推進センター	教授	庄子 仁	サハリン南東沖テルペニヤリッジ周辺のメタン湧水とガスハイドレート生成環境の解明	15,990		○

○基盤研究 (B) 一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	河川結氷時における津波遡上の挙動解明	2,860		○
社会環境工学科	教授	山下 聡	オホーツク海網走沖ガスハイドレートの資源ポテンシャルと環境・災害インパクト	3,770	○	
電気電子工学科	教授	田村 淳二	風力と水素を核とするエネルギークラスターの構築	2,210		○

○基盤研究 (B) 海外

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	バイカル湖クイキャニオンのメタンハイドレート密集生成環境と機構の解明	5,070		○

○基盤研究 (C) 一般 (1/2)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	教授	山田 貴延	バイオガスハイドレートによるエネルギー循環型下水処理場へのCGS導入効果	3,770	○	
機械工学科	准教授	林田 和宏	燃料性状と火炎構造が炭素質PMのナノストラクチャに及ぼす影響の解明	4,030	○	
機械工学科	教授	羽二生 博之	GPS軌道誘導空撮機を用いた自動航空測量によるハザードマップ作成と災害状況の把握	1,300		○
機械工学科	教授	柴野 純一	単結晶内部の延性損傷進展挙動に関する放射光白色X線による研究	1,690		○
機械工学科	助教	久保 明彦	ドレーシングプロセスの可視化支援による定量的評価に基づいたRDドレーサの最適設計	1,170		○
機械工学科	准教授	渡辺 美知子	ビヘイビアコンポーズドによる人工生物の複合・複雑行動の獲得	780		○
社会環境工学科	教授	中山 恵介	北極圏の閉鎖性水域におけるメタン発生量推定に向けた貧酸素水塊の発生機構の解明	650		○
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	マイクロ波センサを用いた海水厚推定手法の検討およびリモートセンシングへの応用	2,080		○
社会環境工学科	准教授	駒井 克昭	寒冷地汽水湖における湖底堆積物の形成過程の解明	1,430		○
電気電子工学科	准教授	武山 眞弓	新規な低温成膜法によるSiNx膜の作製と3次元ウェハ積層配線技術への応用	1,820		○
電気電子工学科	教授	谷藤 忠敏	近赤外分光を用いたヒト脳診断理論の高性能化と実証	780		○
電気電子工学科	教授	野矢 厚	結晶粒径制御によるナノ結晶シリサイドの作製とナノコンタクト界面の形成に関する検討	1,040		○
電気電子工学科	教授	柏 達也	UHF帯電波を用いたITS技術による自動車衝突防止システムの開発に関する研究	1,170		○
電気電子工学科	准教授	川村 武	RF-IDシステムによる暴風雪悪視界下の車両ナビゲーションシステム	1,560		○
情報システム工学科	准教授	渡辺 文彦	複素トラス上の定積分の研究	910		○

○基盤研究(C)一般 (2/2)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
情報システム工学科	准教授	原田 建治	コロナ帯電を用いた汎用ガラスへのホログラム記録技術の確立とその応用	1,040		○
情報システム工学科	准教授	早川 吉彦	統計的画像再構成法による歯顎顔面部X線CT画像における金属アーチファクトの除去	1,560		○
情報システム工学科	准教授	榎井 文人	世評・感情・倫理を考慮して柔軟に有害表現を検出する技術の開発とその応用	1,690		○
バイオ環境化学科	教授	中谷 久之	塗布型擬似酵素によるポリオレフィンの機能性オリゴマー化技術の開発	2,730	○	
バイオ環境化学科	准教授	新井 博文	ハマナス花弁由来加水分解性タンニンによるアレルギー抑制機序の解明	1,560	○	
バイオ環境化学科	教授	鈴木 勉	凝集抑制可能な鉄触媒を用いるバイオマス炭の水蒸気ガス化による革新的水素製造	3,120	○	
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	ボロン酸を用いた糖検出チップの高速応答化とマルチカラーセンサーアレイへの展開	780		○
バイオ環境化学科	准教授	佐藤 利次	食用担子菌による効率的なラッカーゼ等の有用タンパク質発現系の確立	1,040		○
バイオ環境化学科	教授	吉田 孝	表面プラズモン共鳴による硫酸化糖鎖の抗ウイルス性メカニズムの解明	1,820		○
マテリアル工学科	教授	松田 剛	遷移金属酸化物の水素誘起高表面積化と表面機能の制御	3,120	○	
マテリアル工学科	教授	平賀 啓二郎	高速超塑性ナノセラミックスにおける粒界損傷・破断機構	1,690	○	
マテリアル工学科	教授	村田 美樹	ホウ素-水素結合活性化に基づく直截的ホウ素基導入反応の反応制御とその応用	1,300		○
マテリアル工学科	教授	阿部 良夫	スマートウインドウ用ポーラス水酸化物薄膜の開発	1,430		○
共通講座	准教授	柳 等	スウィーピング・パフォーマンス評価のためのカーリングブラシの開発と応用	650		○
機器分析センター	准教授	大津 直史	難剥離性極薄アパタイト皮膜チタン材料製造のための新表面処理技術の確立	2,340		○

○挑戦的萌芽研究

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	准教授	松村 昌典	ルーフトップ型集風塔風車を用いた住宅用風力発熱・発電併用システムの開発研究	2,080	○	
機械工学科	教授	佐々木 正史	湖沼メタンの炭素14年代測定による永久凍土融解速度推定技術の開発	520		○
社会環境工学科	教授	山下 聡	雪上を長距離滑走した土砂崩落現象のメカニズムと発生条件の解明	910		○
社会環境工学科	教授	高橋 修平	知床半島における個体追跡装置を用いたオオワシの行動と海水の関係	1,170		○
電気電子工学科	教授	田村 淳二	ウィンドファームの慣性エネルギーを利用した電力系統の安定化制御	1,690		○
情報システム工学科	教授	三浦 則明	並列波面センサーを用いる新しい天体像回復法の開発	1,040		○
情報システム工学科	講師	中垣 淳	サブバンド間の相互推定による雑音抑圧	650		○
バイオ環境化学科	助教	小西 正朗	深海化学合成生物の長期飼育技術に関する研究：サンプリング依存研究からの脱却	1,820		○
マテリアル工学科	教授	川村 みどり	有機単分子膜をナノ保護膜として活用した銀薄膜の環境耐性	1,690	○	

○若手研究 (A) 一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
バイオ環境化学科	助教	小西 正朗	微生物由来界面活性物質の分子デザイン	13,000		○

○若手研究 (B)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
機械工学科	助教	星野 洋平	冗長アクチュエータ系の自己最適化によるスケーラビリティ獲得の研究	1,950	○	
社会環境工学科	准教授	中村 大	岩質・亀裂・風化を考慮した実岩盤斜面における凍上危険性の評価	2,340	○	
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	高密度スマートセンサアレイとアクティブセンシングによる橋の健全度診断の実用化	1,690	○	
社会環境工学科	助教	富山 和也	非拘束脈波モニタリングに基づく生体疲労に着目した走行路面管理手法の開発	3,120	○	
社会環境工学科	助教	山崎 新太郎	カルデラ湖における深層崩壊，地すべりと湖水氾濫の総合的調査研究	260		○
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	凍結・融解履歴を受ける斜面内土要素の異方性に関する研究	1,040		○
電気電子工学科	准教授	橋本 泰成	皮質興奮性を抑える書痙リハビリテーション法の実用化	3,640	○	
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	MIMO-OFDM無線通信における低消費電力適応型MIMO検出器LSIの開発	780		○
バイオ環境化学科	助教	宮崎 健輔	可視光酸化-生分解化プラスチックの作製	3,120	○	
マテリアル工学科	助教	浪越 毅	ポリフェニルアセチレン膜の光環化反応によるスマート超分子自立膜の創製	2,340	○	
マテリアル工学科	助教	金 敬鎬	フレキシブル高効率色素増感太陽電池の開発	1,820		○
共通講座	准教授	笹川 渉	1960年代から1950年代を中心としたイングランドのイエス生誕詩の政治的多様性	1,950	○	

○研究活動スタート支援

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	助教	大野 浩	南極積雪中で変質する大気エアロゾル起源物質の構造及び挙動解明	1,700		○
情報システム工学科	助教	ブタシンスキ ミハウ	SimpaTALK：話者の感情を考慮し柔軟に場面に順応する言語モデル開発及び応用	1,430	○	

○奨励研究

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
技術部	技術員	中西 喜美雄	蓄熱材を用いた寒冷地における廃熱の有効活用	600	○	

○特別研究員奨励費

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
社会環境工学科	教授	中山 恵介	河口域における水循環と塩水遡上を予測する包括的フレームワークの開発	1,200	○	

平成25年度共同研究の受入状況

平成25年9月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
機器分析センター	准教授	大津 直史	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	独立行政法人物質・材料研究機構
社会環境工学科	教授	高橋 修平	おんねゆ温泉・山の水族館 凍る滝の開発	果夢林ショッピング運営協議会
電気電子工学科	教授	柏 達也	専用EWS上で稼働可能な実車大規模FDTD電磁界解析システムの開発	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	断熱塗料を被覆したコンクリートの凍害抑制効果の把握	水元建設株式会社
社会連携推進センター	教授	有田 敏彦	ポリマーがいのししの塩分付着特性に関する研究	東北電力株式会社 研究開発センター/ 日本ガイシ株式会社 電力事業本部 電力技術研究所
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業株式会社 化学品事業部
機械工学科	教授	羽二生 博之	GPS誘導空撮機による河川および海岸工事施工調査	株式会社エクサ設計
機械工学科	准教授	林田 和宏	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善ー白煙、臭気に関する研究	いすゞ自動車株式会社
機械工学科	教授	羽二生 博之	GPSとWebを用いた緊急車両の冬季運用遠隔支援システムの開発	株式会社ワークム北海道
機械工学科	教授	富士 明良	新時代工学的素養を有する中核人材の育成	一般社団法人 北見工業技術センター運営協会

平成25年度累計55件

平成25年度受託研究の受入状況

平成25年9月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研 究 題 目	委 託 機 関	所要経費
社会環境工学科	准教授	駒井 克昭	釧路川流域における湿原再生に向けた栄養塩循環評価手法に関する研究	北海道開発局釧路開発建設部	円 1,775,000
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	結氷河川における晶氷の発生予測と取水障害対策の開発	北海道開発局旭川開発建設部	1,638,000
機械工学科	准教授	松村 昌典	給排気の熱交換だけでなく花粉や黄砂を防御する空気浄化機能を有する第一種換気装置の開発	独立行政法人科学技術振興機構	1,700,000

平成25年度累計14件

平成25年度奨学寄附金受入状況

平成25年9月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	日本工営株式会社 コンサルタント国内事業本部	円 315,000
社会連携推進センター	特任教授	大島 俊之	構造物の動的非線形応答解析に関する研究	株式会社菊池ジオテック	500,000

平成25年度累計34件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
25.10.1	(新規採用)	黒河 賢二	工学部教授
"	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ長	松田 弘喜	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ長
"	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ機器分析係長	徳田 奨	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ機器分析係長
"	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ機器システム係長	山田 洋文	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ機器システム係長
"	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ計測システム係長	大森 誠一	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ計測システム係長
"	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ技術専門職員	布川 裕	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ技術専門職員
"	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ技術専門職員	三橋 恵治	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ技術専門職員
"	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ技術専門職員	信山 直紀	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ技術専門職員
"	技術部学部・大学院支援室教育研究支援グループ技術専門職員	坪田 豊	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ技術専門職員

= 諸報 =

電子情報通信学会電子部品・材料研究会に参加

(電気電子工学科)

8月1日(木)、2日(金)に釧路市(まなぼつと幣舞)にて、電子情報通信学会電子部品・材料研究会が行われました。この研究会の研究専門委員である武山眞弓准教授が現地世話人として北海道での研究会開催を企画しました。参加者は30数名でしたが、遠くは九州からもご参加いただき、北見工大からは野矢厚教授、武山准教授、佐藤勝助教

が参加しました。研究会では基本的な電子部品・材料に関する発表から、最先端であるグラフェンやシリコン貫通ビアに関する話題など連日活発な議論が飛び交い有意義な研究会となりました。また連日晴天に恵まれ、釧路としては23℃と暖かい日が続き、研究会終了後には野外セッションも企画され、参加者は大満足の会議となりました。



研究会の様子



野外セッションの様子

小学校教諭対象の理科実験研修 「地質見学会～地層と化石を探る」を実施

(総務課)

8月2日(金)、小学校教諭を対象とした理科実験研修「地質見学会～地層と化石を探る」を実施しました。

この研修は、本学と北見市教育委員会が平成23年8月に締結した連携協定に基づく取組の一つです。今回は、社会環境工学科の伊藤陽司准教授を講師として、北見市近

郊において小学校理科授業の参考となるような地層の見学等を実施しました。当日は小学校教諭等23人が参加しました。研修実施後のアンケートでは「講師の先生の話がわかりやすく理解しやすかった」「今後も継続して実施してほしい」との回答が多数寄せられました。



研修の様子



化石採取の様子

「おもしろ科学実験」を開催

(企画広報課)

子供たちが実験やものづくりに取り組むことで科学への興味を高めてもらうことを目的として、平成12年から「おもしろ科学実験」を開催しています。平成25年度は8月3日(土)に開催し、各学科、技術部、ものづくりセンター、機器分析センター、オホーツク地域エネルギー環境教育研究会、さらに協賛企業の北海道電力(株)北見支店から合計25テーマが用意され、参加人数は延べ545人となりました。

また、昨年に引き続き、小中学校の教員が実験を楽しく行うための教材として、実験の様子を撮影する取組を実施しました。撮影された映像は後日DVDとなり、市内の小中学校に配布される予定です。

例年ですと猛暑の中での実験ですが、今年あまり気温が上昇しなかったため、凌ぎやすい環境の下、子供たちは元気なものづくりを体験していました。



実験の様子

東北復興支援活動を実施

(総務課)

8月9日(金)から8月12日(月)までの4日間、岩手県陸前高田市において、日本赤十字北海道看護大学と連携して東北復興支援活動を行いました。

本学社会環境工学科の高橋修平教授を中心とした学生教職員のグループが、日本赤

十字北海道看護大学のグループとともに陸前高田市に赴き、現地の子どもたちと遊びや勉強を通じて交流を深めました。高橋教授らによる南極クイズや、南極の氷を使った実験に子どもたちは興味津々な様子でした。



学生と子どもたちの交流の様子



南極クイズを出題する高橋教授

S P Pで高校生が環境調和型エネルギーを学習

(学生支援課)

S P P (サイエンス・パートナーシップ・プログラム) とは、大学や研究機関等が学校や教育委員会と連携して科学技術、理科・数学に関する学習を行う「教育連携講座」で、科学技術振興機構が毎年募集している事業です。本学は、環境、エネルギー、防災・安全、情報通信などの科学技術分野で2003年度以降、毎年採択されています。

今年度は、北見柏陽高等学校の生徒7名、北見緑陵高等学校の生徒11名及び遠軽高等学校の生徒2名の合計20名が、「環境調和型エネルギーを学ぶ～自然エネルギーと燃料電池～」(講師：バイオ環境化学科 岡崎文保准教授、電気電子工学科 高橋理音准教授) というテーマで、8月10日(土)から11

日(日)の2日間にわたり体験学習を行いました。

第一日目は、開講式の後、「地球環境問題とエネルギー」の講義と水力エネルギー利用技術の体験学習、第二日目は、燃料電池模型体験実験、討議とレポート作成、燃料電池(F C)カートの試乗、レポート発表と討論を行いました。

受講した高校生は、T Aのサポートを受けながら実験やレポート作成に取り組み、他校の生徒と協力し討議・発表、T Aからの質問に協力して応答するなどエネルギーに対する理解を深め、充実した2日間となった様子でした。



講義の様子



振動発電キット作成



燃料電池模型体験実験



燃料電池(F C)カート試乗

「科研費パワーアップセミナー」を開催

(研究協力課)

8月19日(月)に総合研究棟2階多目的講義室において「科研費パワーアップセミナー」を開催しました。

セミナーでは、文部科学省研究振興局学術助成課の中塚淳子課長補佐から「科学研究費助成事業の概要等について」を、本学の電気電子工学科田村淳二教授から「計画書の書き方について ポイントアドバイス

と題した講演があり、科研費に関する最近の情報や変更点、実体験を交えた計画書の記載方法など、幅広い内容での講演に参加者は熱心に耳を傾けていました。

今回のセミナーには総勢50名が参加し、本学を始め北海道内の釧路工業高等専門学校、釧路公立大学、日本赤十字北海道看護大学から教職員が詰めかけました。



講演する中塚課長補佐（写真左）と田村教授（写真右）



会場の様子

平成25年度北見工業大学技術部技術員研修を実施

(技 術 部)

平成25年度技術部技術員研修を8月21日(水)に、多目的講義室を会場に実施しました。

この研修は、技術員が職務を通じて習得した技術成果及び業務内容を発表し、技術的交流と相互の資質向上を図ることや、職務に関する必要な知識を広く習得することを目的として毎年実施しており、今年度は35名が受講しました。

研修会午前の内容は、鮎田耕一学長による開講の挨拶から始まり、田牧純一副学長の『大学改革実行プランと本学のミッションについて』と題した講義に続き、技術員4名による日頃の業務内容・業務成果等についての『技術発表』が行われました。

午前の最後に、昨年度愛媛で行われた『総合技術研究会』(本学から3名参加)の報告があり、全国規模の技術研究会の様子を知ることができました。

研修会午後は、近年行われていなかった見学会を企画し、京セラ北見工場様を訪れ携帯電話や光通信部品の製造過程を見学させていただきました。

この研修を通して、普段の業務では学ぶことのない内容や他分野の技術員の知識・技術の一端を知ることができ、有意義な時間を持つことができました。

また、研修会実施に当たりご協力いただいた京セラ北見工場様にこの場を借りてお礼申し上げます。



鮎田学長 挨拶



田牧副学長 講義



技術発表



京セラ北見工場にて

高大連携協力に関する協定に基づく講座を実施

(学生支援課)

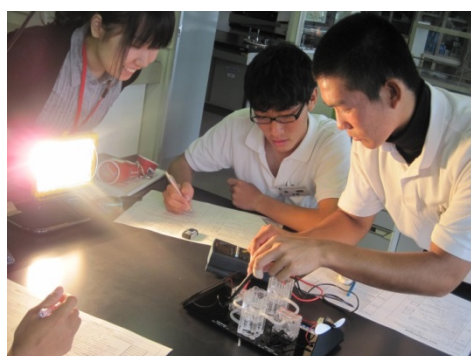
8月28日(水)に北見工業大学と北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定に基づく「遠軽高校講座」を実施しました。この協定は、本学と北海道遠軽高等学校が連携することにより、高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材育成に資することを目的に5月24日付けで締結したものです。

当日は北海道遠軽高校の生徒12名が、「環境調和型エネルギーを学ぶ～自然エネルギーと燃料電池～」(講師：バイオ環境化学科 岡崎文保准教授)というテーマで体験学習を行いました。

開講式の後、「地球環境問題とエネルギー」の講義と燃料電池模型体験実験を行い、その後、体験実験のレポート発表と討論、燃料電池(F C)カート試乗を行いました。

受講した高校生は、T Aのサポートを受けながら班ごとに実験やレポート作成、討議・発表を行い、T Aからの質問に協力して応答するなどエネルギーに対する理解を深めました。

また、昼休みには大学生協の食堂で昼食をとりながらT Aから学生生活のアドバイスを受けるなど、充実した1日となった様子でした。



燃料電池模型体験実験



レポート作成



レポート発表



燃料電池(F C)カート試乗

イノベーションジャパン 2013 大学見本市へ出展参加

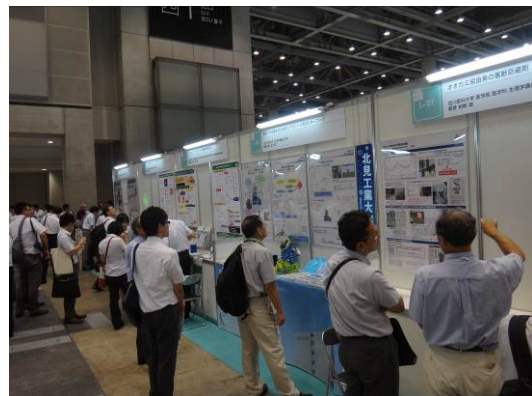
(社会連携推進センター)

イノベーションジャパン大学見本市は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が連携した、我が国の産学連携を強力に推進するための国内最大規模の産学マッチングイベントです。大学等から創出された研究成果の社会還元を促進し、技術移転並びに産学連携への端緒となることを目的としています。本展示会は2004年から開催されており、これまで東京国際フォーラム（東京有楽町）を会場に開催されていましたが、10年目となる今回は東京ビックサイトに会場を移し8月29日（木）・30日（金）の2日間開催されました。

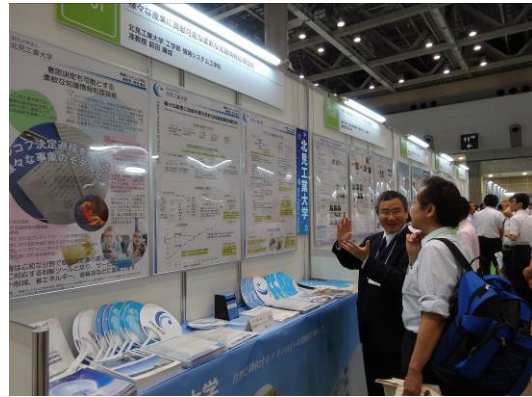
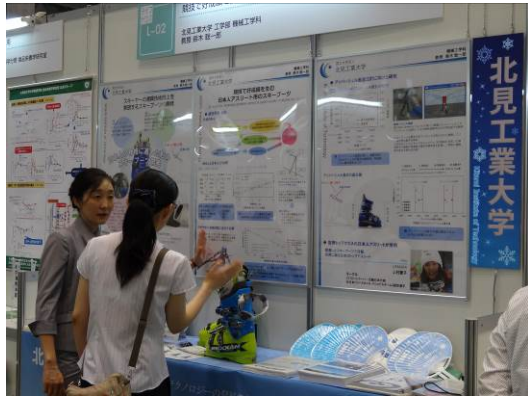
本展示会への出展は、技術内容の審査を経て実現します。今年は、全国の大学から402件の研究が出展しました。本学からは、機械工学科鈴木聡一郎教授が取り組む、「競技で好成績を生む日本人アスリート用のスキーブーツ」、情報システム工学科前田康

成准教授が取り組む、「様々な産業に貢献可能な柔軟な知識情報処理技術」の2つの技術について出展が実現しました。前田准教授は、会場で行われたJSTショートプレゼンテーションにおいても技術紹介を行いました。会場には、各種メディア、産業界や官公庁などから2日間で2万人を越える来場があり、本学の2つのブースにも多くの方々にお出でいただきました。

イノベーションジャパンは出展する技術の背景となる社会状況やその関連市場などの情報を得ることができる貴重な機会であることから、本学においても研究力向上につながる展示会として重視しています。また、本展示会は、出展を通じて本学のプレゼンス向上に大きく寄与できる場でもあります。出展の実現には、厳しい審査をクリアする必要がありますが、今後も、挑戦していきます。



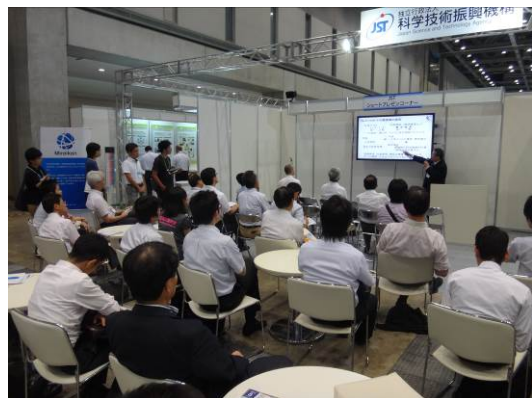
イノベーションジャパン2013会場風景



来場者への技術説明

写真左：機械工学科鈴木教授「競技で好成績を生む日本人アスリート用のスキーブーツ」

写真右：情報システム工学科前田准教授「様々な産業に貢献可能な柔軟な知識情報処理技術」



JSTショートプレゼンテーション（情報システム工学科前田准教授）

食に関わる有識者を招き講演会を開催

(社会連携推進センター)

8月31日(土)17時から北見プラザホテルにおいて、「宮内庁御用達料理人のアイデアで、北見の食材を全国へ」と題し、講演会を開催しました。

講演会では吉田芳春客員教授(吉田国際特許事務所所長)の進行により、日本橋ゆかり総料理長の野永氏、(株)ぐるなびの藤本氏、文化教育科学者の石山氏の食に関わる著名な3人の講師から、オホーツクの豊かな食材や観光資源の活用についての講演が行われました。

講演では、オホーツクが素晴らしい資源

を持っていることや一次製品の加工の必要性、企画広報にはテーマが重要なことなど、今後の取組へのヒントが紹介されました。さらに、野永氏からはオホーツクの食材を活かして試作したソースやカレー等が紹介され、参加者全員でこの「新しい味覚」を体験しました。

地域の活性化には産学官が協力して取り組む必要がありますが、オホーツク地域の恵まれた資源をうまく活用し、地域産業振興へのきっかけとなることを期待しています。



高橋理事の開会挨拶



講演の様子



野永氏によるオホーツクの食材を使った加工品



参加者全員で試食

2nd International Workshop on Advanced Packaging & System Technology を開催

(電気電子工学科)

9月3日(火)～5日(木)に本学で2nd International Workshop on Advanced Packaging & System Technologyが開催されました。この国際会議は、半導体業界でのものづくりにおいてトップレベルである韓国、台湾、日本の研究者が各々協力し合うことで、集積回路のパッケージングやシステムなどの発展や方向性を議論する会議であり、大学関係者、企業、省庁等さまざまなメンバーが参加し、それぞれの立場から

の要望、発展の可能性等を話し合いました。記念すべき第1回目の会議は韓国で行われ、第2回は日本での開催が予定されておりましたが、数ある開催地候補の中で本学が選ばれました。Advisory Committeeの一員として武山眞弓准教授が本会議に参加しました。人数は30数名と小規模な国際会議でしたが、終日活発な議論が飛び交い、有意義な会議が行われました。



会議の様子



実行委員会のメンバー

F D 講演会を開催

(学生支援課)

9月4日(水)多目的講義室において、共通講座の三枝和彦准教授と東京農業大学から君島利治准教授を講師にお迎えし、「習熟度別授業の事例報告」をテーマにF D講演会を開催しました。

この講演会は、教育改善推進センター運営会議において、本学の英語の講義で導入されている習熟度別授業の現状を報告し、今後他の科目において導入を検討する際の参考とするために企画したものです。

まず、三枝准教授から、「北見工業大学における習熟度別授業（英語講読）の現状と課題」と題して御講演いただき、習熟度別授業導入の経緯から実施状況、学生からのアンケート調査に基づいた現状と課題に

ついて報告いただきました。

次に、東京農業大学生物産業学部の君島准教授から、「東京農業大学オホーツクキャンパスにおける習熟度別英語授業」と題して御講演いただき、平成元年の学部開設時から導入された習熟度別クラス編成の経緯から実施状況、学生のアンケート調査に基づいた成果について報告いただきました。

その後、2人の講師に対し活発な質疑応答がなされ、授業方法の改善を考えていくうえで、非常に有意義な講演会となりました。

今回のF D講演会は多忙な時期の開催でしたが、44人の教職員に参加いただきました。



講演中の三枝准教授



講演中の君島准教授



講演会の様子

平成25年電気学会電子・情報・システム部門大会を開催

(電気電子工学科)

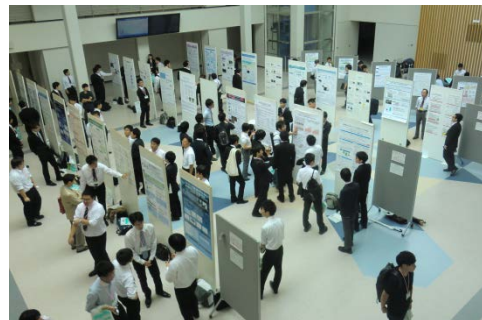
9月4日(水)～6日(金)の3日間、本学を会場として平成25年電気学会電子・情報・システム部門大会が開催され、全国から626名の参加がありました。本大会は、電気学会の5部門(A～E)の一つ、電子・情報・システム部門の年次大会であり、主に電子工学・情報工学・システム工学を中心とした分野に関する研究発表を目的として年1回開催される全国大会です。本学は本大会共催機関として参画し、電気電子工学科田村淳二教授を委員長、谷本洋教授を副委員長とする開催地実行委員会を構成して準備・運営に当たりました。

大会内容としては、一般論文発表としてのポスターセッション・オーラルセッションが1号館講義室とアトリウムにおいて開

催され、総計480編の論文が発表されました。また、初日の4日には北海道大学の五十嵐一教授による先端技術セミナー(演題: 電磁界解析による最適設計技術)、5日には公益財団法人知床財団 増田泰事務局長による特別講演(演題: 世界自然遺産知床の現状について)が開催されました。5日の夜にはホテル黒部において懇親会が開催され、鮎田耕一学長による歓迎のご挨拶等の後祝宴となりました。更に、7日には見学会が開催され、増田氏による特別講演との関係行事としてサクラの滝、裏摩周、知床峠、知床自然センターを巡る知床ツアーに64名が参加し、知床峠展望台や自然センターでのダイナビジョン映像等により知床自然環境の現状を視察しました。



オーラルセッションの様子



ポスターセッションの様子



増田事務局長による特別講演



鮎田学長による懇親会挨拶

インフォメーションバザール in 池袋へ出展

(社会連携推進センター)

9月5日(木)～7日(土)の間、昨年に引き続き開催された北洋銀行、帯広信用金庫と鹿児島銀行の主催によるインフォメーションバザールin池袋に、工農人材育成事業とその成果である開発商品の紹介を兼ね参加しました。

本事業受講生の、イソップアグリシステム、ハッカ通商も単独で参加しており、KITAMIブランドの会、きたみらい農協、ところしんや、香遊生活の各社・各組織の参加、東京農業大学の人材育成事業、バイオインダストリーからの参加、そしてもちろん北見市、北見観光協会、商工会議所からの参加もあり、北見から大挙して産学官が

連携し地域と地域の商品を売り込んできました。

この企画は産学官金連携の象徴的的事业で、南北の銀行がそれぞれの地域特産品を首都圏に売込む事が最大の目的ですが、南北特産品のコラボレーションの可能性を探る大変に良い機会ともなっています。受講生や社会連携推進センターにとっては、成果のプロモートと新たな連携検討の両面で意味のあるイベントです。それらはシーズの発掘や連携マネジメントの観点からも有効であることから、当センターは今後も、この活動に地域貢献と指導的立場の発揮を期し参加していく方針です。



出展ブースの様子



商品売り込み中

電気工学科第4期生(S48卒)のご一行10名が母校を訪問

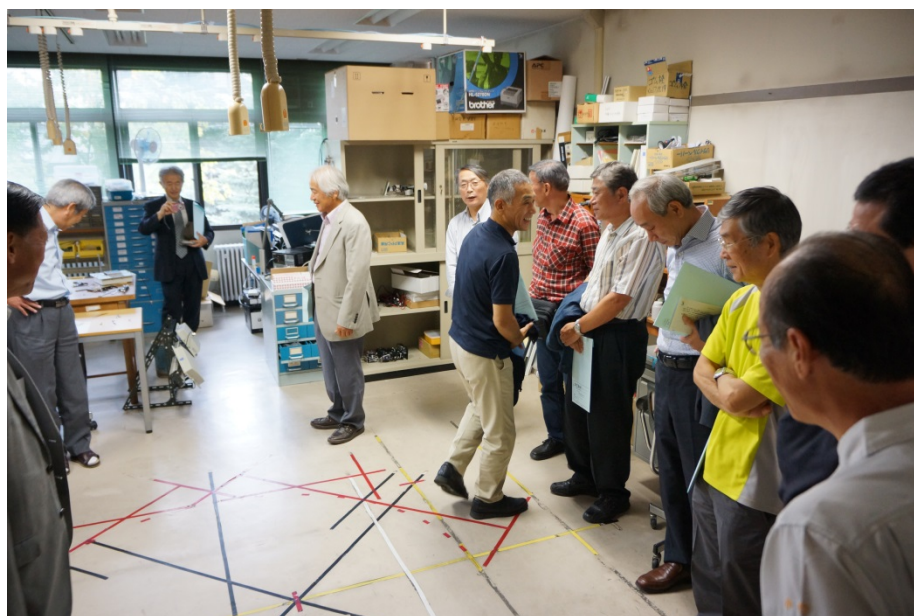
(電気電子工学科)

9月13日(金)に、電気工学科第4期生(昭和48年卒)の松原清秀氏をはじめ10名の方々が、同期会を北見で開催するという事で、母校を訪問されました。中には卒業以来初めてという方も多く、母校の変わりように驚くとともに、その発展ぶりを大変喜んでくださいました。

ご一行は大学に到着後、田牧純一副学長を表敬訪問され、つづいて電気電子工学科を訪問されました。電気電子工学科では、学科の変遷と現状を学科長の谷本洋教授が簡単にご説明したあと、旧電気工学科に源

流を持つ4つの研究室を順次ご見学になりました。皆さんの在学時の教員・職員は全員退職されてどなたも残っていらっしゃらない筈でしたが、見学先には何と退職された元技官の大内さんと小竹さんが再雇用で勤務中でした。このサプライズにお互い名前を確認しあい、非常に盛り上がりました。

ご一行は、見学終了後、温根湯温泉に移動し、品田雄治先生(本学名誉教授)などをお招きして旧交を温められたということです。



電気工学科第4期生ご一行の研究室見学のひとこま

興部町で行われたマルシェ活動に学生と共に参加

(社会連携推進センター)

社会連携推進センターで進めている人材育成事業において、本事業と受講生開発商品の紹介を兼ね、例年、一般社団法人オホーツクテロワールが主催する「オホーツクマルシェ」に参加しています。本年もこれまで、9月1日(日)の清里町「ふるさと産業まつり」、9月14日(土)の興部町「街んなかマルシェ」、9月15日(日)の斜里町「ウトロマルシェ」に参加しました。

興部町での「マルシェ」へは、街おこし等を学ぶマネジメント工学コースの学生も参加しました。人材育成による商品群の展示即売の他、学生たちは、「北見工大学生によるおもしろ科学塾」として子供たちに廃CDとペットボトルを使ったホバークラフトづくりを教え、子供ばかりでなく親御さんたちを含め喜んでもらうことができま

した。また、イベントの実行委員として活躍している本学OBの役場職員の方には、学生の卒業研究活動の一環となるアンケート調査にも協力してもらいました。本イベントには北海道大学、明治大学、本学の誘いに応じた日本赤十字北海道看護大学も加わり、計4大学の参加があったこととなります。

このような地域イベントへの学生の参加は、少子高齢化が進む各地域の皆さんから、「イベントの活気の面だけでなく、今後の大学との新たな連携を検討する上でも大変良い機会になっている。」と好評をいただいています。これからもたくさんの学生が地域活性化の起爆剤として参加し活躍してくれることを期待しています。



北見工大学生によるおもしろ科学塾

地域社会人の人材育成事業－4 大学合同特別セミナーに参加－

(社会連携推進センター)

9月27日(金)・28日(土)両日、網走市を中心とし、JST「地域再生人材創出拠点の形成」事業の道内採択大学である東京農業大学、帯広畜産大学、北海道大学と本学による4大学合同特別セミナーが開催されました。本年は、北海道大学からも本格的に受講生が参加し、受講生、関係者を含め77名が集う盛大な合同セミナーとなりました。

1日目は開会式の後、各校からの活動紹介

とJSTによる事業趣旨説明が行われました。2日目は、午前中に3カ所の関連施設見学会を行い、午後からは基調講演、ワークショップ、全体議論を行いました。

本学からは社会人受講生と学生、事務局を含め8名が参加しました。それぞれ、本学における今後の活動の議論・確認、産学官連携の現場に身を置いた学習などを行う貴重な機会とすることができました。



東京農業大学横濱道成学部長の挨拶



エミュー飼育の見学

= 日誌 =

8 月

- 3日 おもしろ科学実験
- 5日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 6日 教員免許状更新講習（～10日）
- 10日 サイエンス・パートナーシップ・プログラム（～11日）
- 19日 科研費パワーアップセミナー、研究費使用に関する意見交換会
- 26日 平成25年度秋季・平成26年度大学院工学研究科博士前期課程入学試験（～27日）
- 27日 国際交流委員会
- 28日 平成26年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験、平成26年度大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会
- 29日 教務委員会

9 月

- 2日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 3日 入学者選抜委員会、社会連携推進センター運営会議
- 4日 教授会、研究科委員会、研究推進機構統括会議、FD講演会、平成25年度秋季・平成26年度大学院入学試験合格発表、平成25年電気学会電子・情報・システム部門大会（本学共催）（～6日）
- 5日 平成25年度秋季大学院入学手続（～12日）
- 6日 学位記授与式
- 10日 大学評価委員会
- 17日 TAのFD研修、第3回学術情報委員会
- 18日 教育研究評議会、役員会、発明審査委員会
- 19日 学長選考会議
- 20日 教務委員会
- 30日 パイオニア実践プログラム特別セミナー